

「基盤教育院の木」をつくる — 基盤教育院のFDの取組みと成果 —

末代 誠仁・松久保 暁子・Brewster,D・林 加奈子
池田 智子・室岡 一郎・齋藤 伸子・薛 恩峰

キーワード：教育目標の可視化、Can-do statements、JF スタンダード、FD

概要

桜美林大学基盤教育院は、学内で主に初年次教育を担当する教育組織である。1年次の必修科目である英語、コンピュタリテラシー、文章表現、口語表現、キリスト教入門のほか、外国語、日本語を母語としない学生を対象とした日本語、国内外のフィールドスタディーズ、アカデミックキャリアガイダンス科目などの提供を通して、豊かな学びと基礎力育成の両立を目指してきた。

入学生の学力の多様化が顕著化する近年、大学での学びのスタートを担う初年次教育の役割は大きくなりつつある。基盤教育院では全体あるいは科目単位のFDを通して、教育目標に関する議論を専門科目やキャリアデザイン、成績評価などの実質的な観点で行ってきた。その中で、初年次教育が「将来につながる学びの途上」である点を重視したスモールステップでの目標設定などを提案・実現し、学生の自発的・自律的な学びの支援を目指してきた。

また、科目を横断する目標の設定にも取り組んできた。たとえば、キリスト教入門を通して理解・修得したことをほかの科目での学びに生かすことは本学建学の精神に則った科目横断的な目標である。文章表現とコンピュタリテラシーでの学びを生かしたレポート作成、口語表現と英語または外国語での学びを生かした自己表現についても横断的な目標である。横断的な目標を見据えることで、学生が各科目を学ぶ意義を強く意識し、学びへのモチベーションを高めることができると考えている。また、基盤教育院で提供する各科目を履修した学生の総合的到達点として「基盤教育スタンダード」を定め、より専門的な学びに向かう学生のビジョン構築を支援したいと考えている。

2014年3月に実施したFDでは、各科目で設定した目標を1枚の紙に貼り付けて関連を示した「基盤教育院の木」を作成した。本稿では、基盤教育院の木の作成に至った経緯、基盤の木の作成方法、およびその成果と考察について述べるものとする。

1. はじめに

基盤教育院では科目ごとに実施されているFDに加えて、2007年度から「リトリート」と称して、専任教員を対象とした基盤教育院全体でのFDが実施されている。2007年度から2009年度は箱根で2日間に渡って行われ、さらに2008年度にはリトリートに加えて専任教員と非常勤教員を対象としたFDを実施した。この間は、基盤教育院長とデパートメントチェアが中心となってFDの企画運営を行っていたが、2010年度から、基盤教育院のFD委員会が企画・運営し、多摩アカデミーヒルズで1日かけて実施している。そして「基盤教育院スタンダード」の構築を目指し、各教員が主体的に考え、問題解決を図るために、主にワークショップ形式での議論を展開してきた。

2010年度、2011年度の実施内容とその成果については「ワークショップ形式のFDを通して「現実の学生」に向き合う—1年後のさくらさん—」(齋藤 2013)に掲載されているため、ここでは2012年度の実施内容と成果の概要を述べる。

2012年度は「基盤教育スタンダードの構築に向けて3—目標達成度の評価」というテーマで、次の3つの目標を掲げ、2010年度、2011年度と同様にワークショップ形式で実施した。

- (1) 授業の到達目標の達成度と成績評価の現状を共有する
- (2) 客観性を高める評価方法としての成績の数値化を議論する
- (3) 数値化に伴う問題を議論する

2011年度のFDでは、多様な学生を受け入れている現実を踏まえて、最も評価の高い成績Aのゴールを示すだけでなく、それに至る過程の平均的なC評価の到達目標を示すという「スモールステップによる到達目標の提示」を提案した。そしてその結果を踏まえて、2012年度は各科目の到達目標を客観的、かつ対外的にもわかりやすく示すことができるのか、またその問題点について議論することとなった。

その結果、上記(2)について、主に次のような意見が挙げられた。

- 外国語など、客観的に評価しやすい科目であっても、数値化の実現には問題がある
- 外国語など、公的試験の評価は授業の評価に含まれない
- 英語コアなど、レベル別クラスにおける評価の問題(初級クラスと上級クラスのA評価を、同等の価値とみなしていいのか。)
- 科目によって最終目的が異なるので、統一した評価基準を設けるのは難しい

そして上記(3)について、主に次のような意見が挙げられた。

- 客観的評価が難しい科目でも、対外的に成果を示す必要がある（『基盤教育院要覧』の改訂など）
- 数値化できない成果は「～できる」という形で示す
- 科目ごとに詳細な到達目標を立て、共有する
- 客観的評価が難しい科目は、S/U 評価してはどうか
- 1 年生では客観的評価はしない（必修・レベル別編成のカリキュラムでは難しい）

このように、客観的評価を実現させるための様々な方法が提案され、その中の一部はシラバスの評価方法を記載する上で有益であった。そして客観的評価の重要性は認識しつつも、外国語のように他の科目と比べると客観的に評価しやすい科目であっても、客観的評価には様々な問題があることも指摘された。

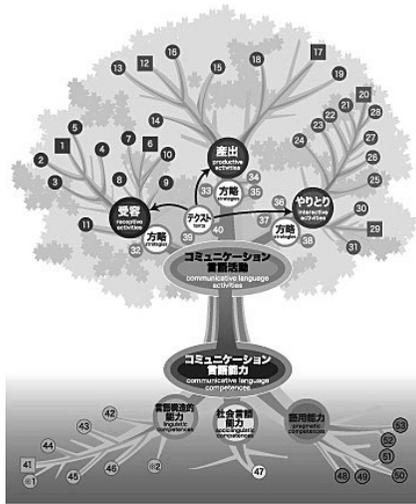
これらの議論の結果を踏まえて、2013 年度の FD を実施するにあたり、教務・FD 委員会では、基盤教育院が目指す目標達成度を、数値化に代表される客観的評価だけではなく、「～することができる」という形で示す Can-do statements で示すことができないかという意見が出された。さらにこれらを視覚的に明示する必要があること、そしてその方法について議論された。その結果、日本語教育における「JF スタンドールの木」からヒントを得て、2013 年度 FD では「基盤教育院の木」を作成することとなった。

2. 「基盤教育院の木」を考えるにあたって

数値化によらず、しかも客観的な評価を行うために、Can-do statements（能力記述文）を使う方法がある。言語教育の分野では現在、CEFR^註が広く知られており、日本語教育では CEFR に準じた「JF 日本語教育スタンダード」（国際交流基金 2010）が国際交流基金によって開発されている。いずれも、目標とする言語で何がどれだけできるかという熟達度を表す Can-do statements のリストを含むものである。

基盤教育院スタンダードも、到達目標を Can-do の形で記述した能力記述文が中心となることが想定されるが、到達目標をリスト化する前に、目標の位置づけや目標同士の関連性を視覚化し、全体像を明確にすることが必要だと思われた。そこで、2014 年 3 月 5 日に多摩アカデミーヒルズで実施した 2013 年度の基盤教育院 FD では、基盤教育院が提供する各科目の到達目標を、1 枚の紙に貼り付けて、さらにそれらの関係を示した「基盤教育院の木」を作成することにした。

基盤教育院の木の発想のとは、国際交流基金の作成した「JF スタンドールの木」（図）



にある。JFスタンダードの木は、前述のJF日本語教育スタンダードを開発するにあたって作られたもので、言語によるコミュニケーションが言語活動と言語能力の関係でとらえられ、一本の木で表現されている。木の葉にあたる部分には、受容、産出、やりとりの3領域において、「経験や物語を語る」「手紙やメールのやりとりをする」などのコミュニケーション言語活動が記述され、木の根にあたる部分には、言語構造的な能力、社会言語能力、語用能力の3領域において、「文法的正確さ」「社会言語的な適切さ」などのコミュニケーション言語能力が記述されている。

しかし、基盤教育院には言語以外の科目もあり、内容は多種多様である。そのため、基盤教育院の木では、活動内容や能力をカテゴリー化するのではなく、扱う内容や目標が近い科目群をグループにしてまとめることにした。また、入学前に習得しておいてほしいことという、JFスタンダードの木にはなかった内容も加えたため、カテゴリーが3種類になった。

このように、基盤教育院の木は、JFスタンダードの木の考え方を取り入れながら、内容が異なるものとなった。基盤教育院の木の作成作業は基盤教育スタンダード構築の一環であり、到達目標の位置づけと関連性の視覚化が木作成の目的であるため、「葉」の部分には、各科目の到達目標をCan-doの形で記述して配置した。記述の際には、科目としての総合的な目標ではなく、スキルや活動ごとに細分化した目標とするように留意した。「幹」の部分には、目標を達成するために必要となる知識・技術を記述した。これもスキルや活動に留意しながら作成したが、細分化された目標達成を支える知識・技術を考えていくと共通のものが多く見られたため、共通の知識・技術としてまとめることになった。そして、「根」には、履修前(入学前)に学生に習得しておいてほしい基礎的な知識・技術を記述した。入学前という時間軸の異なる内容を記入することは、新しい発想であった。

3. 2013年度のFD

基盤教育院の木は次の(1)～(6)の手順で作成した。

(1) 大きめの紙に木の絵を描く

- (2) 付箋を用意して各科目の目標を1枚につき1つ書く
- (3) 上記(2)の付箋を上記(1)に葉として貼り付ける(内容が近い付箋が近くに集まるように配置し、内容が同じ付箋は1枚に統合する)
- (4) 類似した内容の付箋をグループ化して、必要であればグループの概要をあらわす付箋を追加する
- (5) 個々の目標を達成するために必要となる共通の知識・技術を書いた付箋を作成して木の幹として貼り付ける
- (6) 履修前(入学前)に学生が習得しておくことが望ましい、または習得しておく必要がある基礎的な知識・技術を書いた付箋を作成して木の「根」として貼り付ける

ただし、基盤教育院に所属する約30名の教員が持ち寄った目標をいきなり1本の木にまとめることは作業スペースの関係上難しい。そこで、①教員の担当科目に応じた6つのグループ(一グループ4～7名)がそれぞれ小さな木を作成する、②6本の木を2本(語学科目とそれ以外)に束ねる、③2本の木を束ねて1本の木を作る、という3ステップで作成した。なお、木を束ねることで同じ内容の付箋が重複する場合は、科目ごとの捉え方の違いを考慮して両方を残すこととした。そのため、例えば葉の中、あるいは葉と根の両方に同様の付箋が存在している。これをどのように整理するかは今後の課題としたい。作成した基盤教育院の木は本稿末尾の付録として示す。

4. 「基盤教育院の木」の考察

本稿の著者である基盤教育院教務・FD委員会のメンバーは、この基盤教育院の木を考察するに際して葉として貼り付けられた付箋を「外国語」、「社会の中で実践を通して学ぶ」、「スキル」、「キャリア」の4カテゴリーに分類した。これに「根」を加えた5カテゴリーについて以下に考察を述べる。

【外国語】

最も多くの到達目標が挙げられたのは「外国語」科目群で、英語、その他の外国語、第二言語としての日本語が含まれる。言語により大学入学時点の学習歴や能力が異なること、目標言語を学ぶのが外国語環境か第二言語環境か、留学生の場合は正規留学か短期交換留学かによってニーズが異なることなどにより、到達目標のレベルは様々で、内容も多岐にわたっている。目標は①四技能、②言語知識、③態度、④学習スキルに分けられ、こ

のうち、①の四技能は「木の葉」にあたり、②～④は木の「幹」にあたる。

以下、同趣旨のものはまとめ、英語で書かれていたものは日本語にして記す。

① 四技能

《聞く》「100までの数の聞き取りができる」「具体的な内容をゆっくり、はっきり伝えるスピーチを聞いて理解できる」「目標言語による授業中の指示が理解できる」「講義を聞いて理解できる」「ニュースを聞いて内容が理解できる」など、初歩的な聞き取りからオーセンティックで高度な聴解に至るまで幅広く、これは目標言語や学習者の条件の違いによるものと思われる。「クラスメートとスムーズに英語で会話ができる」のように、口頭運用力と切り離せない目標もあった。

《話す》中国語の「四声、軽声」といった音声に関するものや語レベルのもの（「単語の発音ができる」）から日常会話に関するもの、フォーマル度の高い談話形式であるプレゼンテーションに関するものまで、様々である。説明、描写、意見表明、まとまった長さの独話、大学という場における言語行動、教室外／大学外でのやりとりなどが目標達成を目指すべき学習内容として挙げられている。例としては「基本的な語彙を用いて自己／他者紹介ができる」「天気、持ち物、時刻、年齢や誕生日が言える」「家族について話せる」「ほしいものが言える」「人と会う約束ができる」「会話の展開を予想しやすい日常的な場面において身近な話題で質問・答えなどの定型的なやりとりができる」「道を教える／尋ねることができる」「日々の行動、好き嫌いなど身近な話題について3～5分程度のシンプルだがまとまりのある発表ができる」「教師やクラスメートに助けを求めることができる」「興味のある話題について意見が言える」「ニュースや新聞を理解して意見を交換できる」「大学での勉学に必要なことを日本語で表現できる」などが挙げられる。

《読む》「短文、単文が読める」「300語程度の英文を読んで理解できる」「身近な話題の生の素材を読んで理解できる」「学習者向けにレベルをコントロールした読み物を5篇以上読み、理解できる」「学習者向けに書かれた本を楽しみながら読むことができる」「学習者向けではあっても長いものを苦勞せず読める」「より速く、読解力を高めながら読める」「論説文が読める」のように、テキストの難易度（長さ、学習者向け加工の有無、内容）と読む際の労力を結びつけて目標を設定したものがほとんどである。「読解のストラテジーを使える」という、読みのプロセスに注目したものもあった。

《書く》「人や物を描写する150語程度のパラグラフが書ける」「シンプルで短いまとまりの

ある数パラグラフ300語程度の文章が書ける」「2つのものを比較する300～400語、5段落程度のエッセイが書ける」「レポートが書ける」「講義の内容を要約できる」などの長さとも内容を明示した目標の他に「英語・日本語にない独特の表現を使って文章が書ける」などもある。「書く際に使える500-600語の語彙の習得」という知識に関するもの、「書いたものを自分で直せる」というメタ認知能力、教室外を意識した「社会で通用する文章によるコミュニケーション能力を身につける」という目標もあった。

② 言語知識

“Vocabulary & Grammar”として分類された到達目標には、「1000語／2000語の単語が理解できる」「学んだ語彙の75%を定着させる」「専門的な文章／新聞記事の中の連語が理解できる」などの語彙関連知識に関するもの、「英語の基本は構文。文法の知識」「動詞は活用することをわかっている」などの文法に関するものがある。「繁体字と簡体字」のように、文字そのものに関するものもあった。「大学での勉強に必要な文法項目が適切に運用できる」は、知識の運用にまで触れているという点で、このカテゴリーの他の目標とは異なっている。

③ 態度

「インターネットの○○語サイトを恐れずに見られる」「恐れずに表現」のように心理的壁を乗り越えること、「いい成績を取るためにはどうすればいいか理解する」のように、授業で何を求められているか知った上で取り組む心構えを重視するものがあつた。

④ 学習スキル

自分自身の学習について考え、決定し、行動できるメタ認知スキルや自律学習が非常に重視されている。「自律的な学習ができる」「学習目標を立てることができる」「自分に必要な／合った学習内容を見出すことができる」「自分の学習上の状況と問題点が分析できる」「学習管理能力を身につける」「ノートやQuizlet（無料の外国語学習サイト）など自分に合った単語学習法を見出せる」「eポートフォリオを活用し、自分の長所や弱点を把握するメタ認知的スキル」などがそれである。大学という場を意識した「大学で勉強するために必要なストラテジー／スキルを身につける」「大学での勉学に必要な文法項目の知識を整理できる」「学生同士で協働して学習できる」、気づきに関わる「外国人との発想の違いに気づける」、「態度」とも重なる「学ぶことを楽しむ」「曖昧さを気にせず前に進める」「間違えるのも学びの一部であると思える」などの目標もあった。「日常的な場面で適切にふるまえる」は言語知識とも関わるスキルであるといえる。

実際、以上の目標を念頭に多くの授業が行われている。例えば最も多くの付箋が集まったメタ認知的スキルの養成に関して言えば、コアであっても学生が学習内容を選ぶ余地を残している ELP の授業、学生自身が自己分析、目標設定をして学習を進める日本語プログラムの科目「チュートリアル」などは、学習者の自律を重視する両プログラムの基本方針を具現化した授業実践であるといえる。外国語教育部門で提供する 18 言語全てでも、それぞれの言語の違いを踏まえた上で実現していくことが必要だろう。最後にいえることは、ここに掲げられた到達目標の多くは「外国語」学習に限らないのではないかということである。第一言語として日本語を学び、使用する場合にも共通するものが多数あると思われる。

【社会の中で実践を通して学ぶ】

付箋に書かれていた到達目標は次の通りである。

- 学而事人。この建学の精神を理解してオペリンナーとしての自覚を高める
- 宗教や文化への理解を深め、共生社会の実現に寄与する
- 自己理解、他者理解を通してコミュニケーションをとることができる
- 人と人とのつながりや協働に対する高い意識を身につけることができる
- 地域の中で弱められた人々の痛みを耳を傾け、接するときにははいけないこと、すべきことに気づくようになる
- 地域に暮らす一人の市民としての「わたし」を自覚するようになる
- 机上にとどまらない知識と経験を身につける
- 「わたし」が世界の様々な問題を変える力になり得ることを感じる
- 「待ち」の姿勢ではなく自ら考え動くことができる
- (フィールド活動を通じ) 地域とそこに住む人々に関わる(ようになる)
- (実践を通じ) 自ら率先して行動する習慣を身につけるようになる
- 私自身と地域の行政、政治とのかかわりについて考えるようになる
- 市民団体の果たす役割を理解し、市民団体が地域の課題解決に積極的にかかわるには、行政との協力が必要と理解する
- 社会問題に向き合う力を養うことができる

基盤教育院が提供する科目の中で、「社会との関わり」を重視しているものとして、「キリスト教入門」と「地域社会参加」が挙げられる。両者とも本学建学の精神、すなわち「学而事人」(学んで人に仕えるの意)を根底に置き、キリスト教精神に基づいた人材の育成を目指している。この「学而事人」は、机上の学びだけでは達成できず、現場に出てはじめて

て生きたものとなる。このような観点から、「キリスト教入門」では、イエスが説く「善いサマリア人」の話に見られる「隣人愛」の精神を学び、「地域社会参加」では、サービスマーケティングの手法を取り入れ、理論と実践を結ぶと同時に、学生個人が具体的に地域社会に貢献することを重視している。

しかしながら、このような建学の精神に基づく教育は、本来であればすべての科目において取り入れられるべきものであり、「キリスト教入門」「地域社会参加」といった個別の科目の提供のみで達成しうるものではない。今後は、基盤教育院全体として、「社会との関わり」「学而事人」をいかにそのカリキュラムに取り込んでいくかが課題といえる。

【スキル】

ここに集められた到達目標は、大きく、「日本語による表現スキル(コンピューターの使用も含めたコミュニケーションスキル)」と「思考スキル」に分けられる。大学での学習においても、さらには、社会人になってからの仕事においても強く求められる能力だ。

表現スキルについて具体的に見ていくと、「話すことや書くことについての苦手意識を克服する」「コミュニケーションを通じて他者を理解し、自分を理解してもらう努力をする」「授業で学んだことや考えたことをわかりやすく、論理的に述べることができる」「根拠に基づき、筋道を立てて自分の意見を述べられる」「筆者ならではの体験、観点、思考などを具体的かつ正確に伝えられる」「スピーチの基本的な組み立てを知り、筋道を立てて発表できる」「表情、目線、姿勢、声の調子など、発表態度を意識しながらスピーチできる」「他者の発表を集中して聴くことができ、適切なアドバイスができる」「インタビューすることができる」「書式を遵守したレポートを作成できる」「私信を書くために必要な知識を身につける」といった到達目標が掲げられている。

コンピューターを使用した表現スキルとしては、「Windows PCの基本的な操作を理解し実践できる」「コンピュータネットワークの基本を理解し説明できる」「テキストエディタ、ワードプロセッサを使って読みやすい文章を作成できる」「タッチタイピングができる(毎分60ないし120ストロークまたはそれ以上の速度で)」「効果的なプレゼンテーションを行うためのスライドを作成できる」「表計算ソフトウェアの基本的な使い方を理解し、簡単な帳票を作成できる」「受信者に配慮した電子メールの作成、送信ができる」といった到達目標が示されている。

思考スキルについては、「論理的に考えることができる」「要約ができる(その内容を話したり書いたりする場合は、表現スキルともいえるだろうか)」「テーマを設定し、調べることができる」「問いを立てることができる」「批判的(critical)に考えることができる」といった到達目標が挙げられている。

基盤教育院の教育活動において、こうした到達目標を直接的に担っている科目は、コミュニケーションスキル科目の「口語表現」「文章表現」「文章構成法」「コンピュータリテラシー」、アカデミックガイダンス科目の「大学での学びと経験」であるが、それら以外の科目においても、当然のことながら、その学習過程において「考える力」や「表現する力」が求められている。

グローバル化、少子高齢化、高度情報化が加速し、社会は大きな変化を続けている。そのような「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学」が社会に求められている、といわれている（中央教育審議会大学分科会大学教育部会、2012）。企業も若者に高いコミュニケーション能力を求めている、といわれて久しい。「スキル」の到達目標はまさにそうした社会のニーズに応えようとするものだ。

【キャリア】

基盤教育院が提供する科目の中では、「自己実現とキャリアデザイン」、「大学での学びと経験」の一部で、キャリア教育を提供している。主に1年生を対象とした科目であるため、就職活動のための知識、スキルの修得ではなく、「自分自身を見つめて、将来のキャリアを考える」、「大学での学び方を学ぶ」、「社会人となるための心構えやマナーを知る」ことを主眼に置いている。

「キャリア」としてまとめられた到達目標は次の通りである。

- 従来のキャリアを意識できる
- 「働く」意義を理解する
- 自己実現のために自分に何が足りないかを理解し、大学生活で何をすべきか考える
- 自分自身を見つめ直し、将来を考えることができる
- 社会の仕組みに目を向けて、社会と自分との関わりを考えることができる

中央教育審議会（2011）で「キャリア」を「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである」と説明しているように、大学でのキャリア教育は大学卒業後の進路決定だけを目指すのではなく、生涯に渡るキャリア形成の基盤の形成を目指すものであるが、その中でも特に1年生では上記の到達目標に重点を置いたキャリア教育が必要であることが示されている。

【根】

ここに集められた事項は、基本的には、個々の科目の到達目標ではない。本来ならば、

大学入学以前に身につけておきたい、あるいは、身につけているはずの能力が多く含まれている。その意味では、その多くは、大学教育においては「補習(リメディアル)」の対象となる事項であるともいえるだろうか。その一方で、大学教育において、より高いレベルへと導きたい能力もある。それらは大学でのすべての学習の基盤となる能力であり、高校までにある程度は身につけていたとしても、さらに太く、強い「根」として張りめぐらせてもらいたい能力だ。具体的な事項をみていくと、大きくは、「基本的学力」「学習スキル」「他者や他文化への関心」「社会スキル」に分けられる。

「基本的学力」については、「日本語での読み、書きが充分にできる」「ことばの知識、ことわざの知識が充分にある」「簡単な文法用語を日本語で理解している」「直接目的の文法用語を理解できる」「アルファベットが書ける」「英語の基本的な文法と文の構造を理解している」「基本的な英語の語彙がある」「自国の文化や歴史を母語で語れる」「算数や数学の基礎的事項を理解している」などが挙げられている。

「学習スキル」については、「自ら学ぶことができる」「学習目標をもっている」「予習、復習などの基本的な学習習慣がある」「ノートがとれる」「国語事典、英和辞典、和英辞典などの辞書が使える(辞書を使う習慣がある)」「ペアワークやグループワークなどの協働学習ができる」「教員の指示を聞き、従うことができる」などが挙げられている。

「他者や他文化への関心」については、「知的好奇心がある」「人とコミュニケーションする意欲がある」「外国の言語や文化に大きな関心があり、外国へ行きたいと強く思う」などが挙げられている。

「Social Skills」については、「学生としての常識や良識がある」「社会のマナーを身につけている」などが挙げられている。

これらのなかで、現在、特定科目の到達目標となっているのは、「算数や数学の基礎的事項を理解している」だ。比と割合、概算と検算、確率といった基本的な数の概念の理解を目指す「数の基礎理解」が2014年度より開講されている。大学での学習においても、たとえば統計資料を読み解く際に必要な能力であり、当然のことながら、社会人として働くうえでも必須の能力だからだ。

なお、たとえば、日本の政治システムや裁判制度といった「基本的な社会の仕組み」についての知識が乏しい学生も多く見られる。「数の基礎理解」と同様の理由で、将来的には、こうした知識の補填を目的とした科目を開講する必要もでてくるかもしれない。

5. おわりに

最後に、基盤教育院の木全体への考察、および今後の課題について述べる。

基盤教育院の木には語学に関する目標が多く見られる。これは、日本語も含めて多様な語学科目を重視する本学において、様々な教育目標が整備されていることを反映している。自己の表現、他者への理解など、学而事人の基盤となる考え方が織り込まれている点も本学の特徴を強く表すものである。スキル・キャリアに関する目標も多く、高等学校までの勉強から大学での学びに移行し、社会での活躍を目指す本学学生を実質的な面で支援したいと考える教員の姿勢が窺える。

その一方で、社会の仕組み、数学などに関する目標については整備の余地があることがわかった。これについては既存科目における目標の整理、関連科目の整備などを要するところである。また、学生一人ひとりが自己の内面と向き合い、自分自身を律して鍛えていくという方向の目標も今一步の整備が求められる。本学ではキリスト教主義に基づく教育、運動部の充実などを通して学生の人格形成にも力を入れており、この方向に目標を拡張する素地は形成されているものと考えられる。各科目の特性を生かしながら、基盤教育院として貢献できる方法を模索していきたい。

以上のような目標の分布と傾向、および今後の方向性が可視化できたことは、基盤教育院の木を構築した最大の成果であると考えている。今後の課題として、様々な目標の整理・分析、およびその結果に基づく Can-do statements の明確化が挙げられる。

注

Common European Framework of Reference for Languages、(日本語訳：ヨーロッパ言語共通参照枠)

参考(引用)文献

国際交流基金「JFスタンダード2010」ウェブサイト閲覧(2014年9月24日)

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/report/24.html>

齋藤 伸子 他(2013)「ワークショップ形式のFDを通して「現実の学生」に向き合う」

『OBIRIN TODAY 第13号』pp.103-117

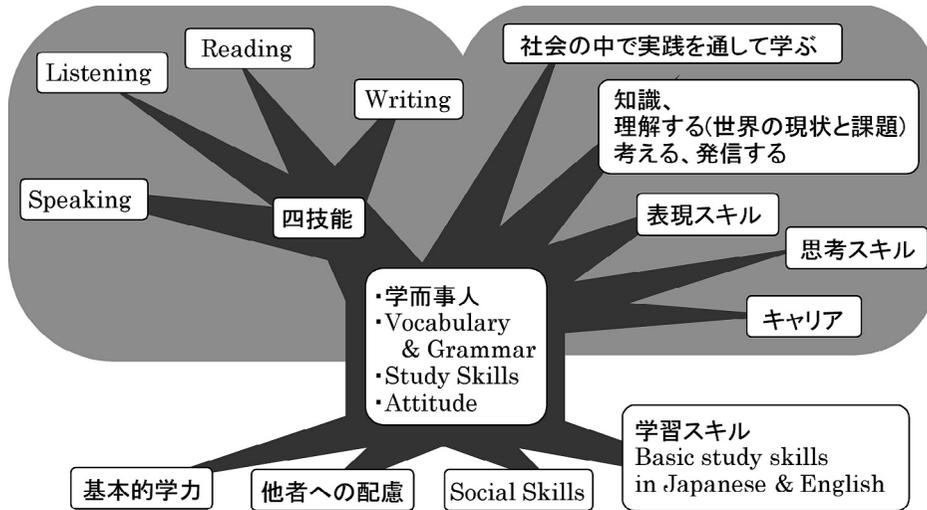
中央教育審議会(2011)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)

中央教育審議会大学分科会大学教育部会(2012)「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」(審議まとめ)ウェブサイト閲覧(2012年12月27日)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm

付録

基盤教育院の木 (図中のラベルは幹・枝、および葉、根のグループ名)



【葉】

Writing

- レポートが書ける：Can write reports (term papers)
- Can write simple, clear and well-organized short essays and stories in paragraph form
- Understands how to do basic editing of written work：can correct common errors
- 人や物を描写するパラグラフが書ける (150 語程度)
- 講義の内容をまとめることができる (Can summarize lectures)
- Writes simple, short, structured essays (paragraphs) ~ 300 words
- 筆談
- 初習外国 200 語程度の文章が書ける
- Can edit his/her own written texts and correct errors.
- 2つのものを比較するエッセイ (5 パラグラフ、300 ~ 400 語) を書ける
- 英語・日本語にない独特の表現を使って文章が書ける
- 社会で通用する文章によるコミュニケーション能力を身につける
- Has the productive vocabulary of 500-600 head words

Reading

- Reads texts with improved reading-speeds, whilst also increasing comprehension
- Reads 5 or more graded readers- understanding the story
- Can read longer adapted texts fluently
- 読解のストラテジーを使える (Can use strategies for reading)
- 短文、単文が読める
- 論説文が読める (Can follow argumentative essays)
- 学習者向けに書かれた本を楽しみながら読むことができる
- 300ワード程度の英文を読んで理解することができる
- Can understand short un-adapted articles on familiar topics

Speaking

- 四声
- 軽声
- 単語の発音ができる
- 興味のある話題について意見が言える
- 自己紹介ができる
- ニュースや新聞を理解して意見が交換できる (Understands typical newspaper articles and can exchange opinions)

- Has short discussions about familiar topics : family, etc. 3-5 minutes with a presentation
- Manages simple routine exchanges (e.g. can ask/answer questions/exchange ideas on familiar topics/predictable everyday situations)
- 大学での勉学に必要なことを日本語で表現できる (Can talk about topics related to college studies)
- 身近な話題について簡単なプレゼンテーションができる
- Can ask teachers and/or classmates for help (sometimes in 2nd language)
- 天候、持ち物、時刻、年齢や誕生日を言うことができる
- 道を教えることができる。道を尋ねることができる
- 基本的な動詞を使って話ができる(自己・他者紹介)
- Gives simple descriptions or presentations on familiar topics (e.g. daily routines, likes/dislikes)
- Delivers short, structured presentations about familiar topics (3-5 minutes)
- 家族について話すことができる
- ほしいものを言うことができる
- 会う約束ができる
- 身近な話題について、質問ができる。質問に答えられる
- 日常的な場面で口頭による意思疎通ができる

Listening

- 聴解のストラテジーが使える : Can use strategies for listening
- Listens to and understands classroom instruction in 2nd language
- Answers T/F, multiple choice, WH Question (for main points)
- Understands slow, articulated speech about concrete information
- 講義を聞いて理解できる
- 講義を聞いて理解できる : Understands lectures
- クラスメートとスムーズに英語で会話ができる
- 100 までの数の聞き取りができる
- ニュースを聞いて内容が理解できる : Understands topics in news bulletins

社会の中で実践を通して学ぶ

- 人と人とのつながりや協働に対する高い意識を身につけることができる
- 机上にとどまらない知識と経験を身につける
- (実践を通じ) 自ら率先して行動する習慣を身につけるようになる

- 地域にクラス一人の市民としての「わたし」を自覚するようになる
- 「わたし」が世界の様々な問題を変える力になり得ることを感じる
- 地域の中で弱められた人々の痛みに耳を傾けることができる
- 私自身と地域の行政、政治とのかかわりについて考えるようになる
- 「弱められた人々」と接するときにはいけないこと、すべきことに気付くようになる
- 市民団体が地域の課題に積極的に関わるには、行政との協力が必要と理解する

知識 : 理解する (世界の状況と課題)、考える、発信する

- キリスト教および宗教の基本的知識を得る
 - 授業で学んだテーマについて、自分の言葉で説明することができる
 - 私達が食べているものはなにか、どこからきているか、理解する
 - 世界で起こっている様々な問題を知る
 - 地域福祉に興味を持つようになる
 - 社会人になるための心構え、マナーを理解する
 - 「ネチケット」を理解し、説明できる
 - 私たちの食を生産する農業者の働き、気持ちを理解する
 - 地域の市民社会に参加する体験を通じて、自ら地域の課題に気付くことができる
 - 日本の大学と海外の大学の違いや特徴がわかるようになる
 - 授業で学ぶテーマにまつわる問題を解決するための自分なりの意見を組み立てることができる
 - 歴史や文化におけるキリスト教の位置づけを知る
 - グローバル化する世界の中で、私たちの生活と困っている人たちの生活がつながっていることを理解する
 - 地域に暮らす人々の中で置かれた状況が様々であることを理解できる
 - 世界で起こっている問題を生み出す、構造的な問題があることを知る
 - ボランティアの基本的な考え方を理解できる
 - 「食」を通じて、私たちが普段、見えない人と人のつながりに気付く
 - 日本の教育と海外の教育の比較ができるようになる
- #### 表現スキル
- 描写力を身につける
 - 連体修飾語を巧みに使う

- スピーチの基本的な組み立てを知り、筋道を立てて発表できる
- 表計算ソフトウェアの基本的な使い方を理解し、簡単な帳票を作成できる
- 授業で学んだことや考えたことをわかりやすく、論理的に述べるができる
- コミュニケーションを通じて他者を理解し、自分を理解してもらう努力をする
- 他者の発表を集中して聴くことができ、適切なアドバイスができる
- 効果的なプレゼンテーションを行うためのスライドを作成できる
- 私信を書くために必要な知識を身につける
- 表情、目線、姿勢、声の調子、など、発表態度を意識しながらスピーチできる
- 書式を遵守したレポートを作成できる
- 受信者に配慮した電子メールの作成・送信ができる
- 読みやすい文章が書ける
- 根拠に基づき、筋道立てて自分の意見を述べる（書く、話す）
- インタビューすることができる
- 苦手意識を持たずに、人前で3分間のスピーチができる
- 文章を書くことの苦手意識を克服する

思考スキル

- 論理的に考えることができる
- テーマを設定し、調べることができる
- 「問い」をたてることができる
- 筆者ならではの体験、観点、思考などを具体的かつ正確に伝えられる
- 論理的な文章が書ける
- 批判的 (critical) に考えることができる
- 要約ができる

キャリア

- 自分自身を見つめ直し、将来を考えることができる
- 自己実現のために自分に何が足りないかを理解し、大学生活で何をすべきかを考える
- 「働く」意義を理解する
- 従来のキャリアを意識できる
- 社会の仕組みに目を向けて、社会と自分とのかかわりを考えることができる

【幹】

学而事人

- 建学精神を理解し、オペリンナーとしての自覚を高める

- (フィールド活動を通じ) 地域とそこに住む人々に関わるようになる
- 宗教や文化への理解を深め、共生社会の実現に寄与する
- 自己理解、他者理解をおしてコミュニケーションをとることができる
- 社会問題に向き合う力を養うことができる
- 「待ち」の姿勢ではなく自ら考え動くことができる

Vocabulary & Grammar

- Has the receptive vocabulary of approximately 1,000 head words
- 英語の基本は構文、文法の知識
- Returns 75% of vocabulary learnt from text (shown through tests)
- 動詞は活用することをわかっている
- 繁体字と簡体字
- 新聞記事の中の連語が理解できる : Understands collocations used in newspaper articles
- 2000 語の単語を理解できる
- Possesses a sufficient vocabulary
- 大学での勉強に必要な文法項目が適切に運用できる : Can utilize grammatical items needed to pursue studies in college
- 専門的な文章の中の連語が理解できる : Understands collocations used in academic essays

Study Skills

- Has metacognitive skills : knows his/her own strengths/weakness. (Uses e-Portfolio to build, reflect on, maintain his/her own studies)
- 自分に合った学習方法を見出すことができる : Can find methods of studying that work for him/herself
- 自分の学習目標を立てることができる : Can set up learning goals
- Formulates strategies for studying key vocabulary : strategies dependent on students' way-of-learning (notebooks, Quizlet, etc.)
- 自分に必要な学習内容を見出すことができる : Can find what content is needed for studies
- 自分の学習上の状況と問題点が分析できる : Can analyze current weaknesses (as a language learner)
- Enjoys learning
- Can cope with ambiguity
- 大学での勉強に必要な文法項目の知識を整理できる
- Can re-organize knowledge of previously learned grammatical items needed to pursue studies in college

- 自分で学習を管理する能力を身につけられる：
Develops the ability to control his/her own learning
- 外国人との発想の違いに気付ける
- 語順が変わると不安定であることが直感できる
- 大学で勉強するために必要なストラテジーを身につける：Can use appropriate strategies for enhancing his/her own learning
- 大学での勉強に必要なスキルを身につける：Builds skills necessary for college-level studies
- 自律的な学習ができる
- 学生同士で協働して学習できる
- Understands that making mistakes is part of learning
- Can function in everyday situations

Attitude

- Understands what is needed to pass/get a good grade
- インターネットの○○語サイトを恐れずに見られる恐れずに表現

【根】

基本学力

- タッチタイピングができる：60～120 ストローク／分またはそれ以上
- 基本的な英語の語彙の知識がある
- Can understand the alphabet
- 英和・和英辞典が使える
- アルファベットが書ける
- 日本語では、読み・書き・ことばの知識・ことわざが十分にできる
- 「直接目的」な文法用語を理解できる
- 簡単な文法用語を、日本語で理解している
- レポートを通して自分のスピーチを客観的に振り返り、反省点を次回のスピーチに生かすことができる
- Has a basic understanding of grammar & structure
- 数の基礎理解

- テキストエディタ、ワードプロセッサを使って読みやすい文章を作成できる

- 自国(日本)の文化・歴史を日本語＝母語で言える

他者への関心

- 海外の文学への興味
- 海外への関心
- 海外の音楽
- 知的的好奇心
- Has an interest in language
- 自己責任を認識している
- Is open to/interested in other cultures
- 外国に行きたいと強く思う
- 外国の文化に興味を持っている
- 人とコミュニケーションすることへの意欲
- 海外の好きなスポーツ選手・歌手・俳優などがいる
- 外国の文化に興味を持っている

学習スキル：Basic study skills in Japanese and English

- 自ら学ぶ能力を身に着けることができる
- ノートがとれる
- 辞書を使う習慣をつける
- コンピュータネットワークの基本を理解し説明できる
- Windows PC の基本的な操作を理解し実践できる
- Has educational objectives
- 予習・復習などの基本的な学習習慣
- 勉強の習慣をつけてある
- Is a cooperative learner : able to work in pairs & groups, able to listen to & follow teachers' instructions

Social skills

- 学生としての、常識と良識
- 社会のマナー
- 忍耐力、持久力をつける(あきらめない)

※上記分類に一部不自然な箇所があるがFDの結果をそのまま記載した